２０２６年１１月２０日
損害保険ジャパン株式会社

八街市との『包括連携協定』の締結について

損害保険ジャパン株式会社（代表取締役社長：石川 耕治、以下「損保ジャパン」）は、八街市の地域防災力のさらなる向上を図るため、八街市（市長：北村 新司）と『包括連携協定』を１１月１３日に締結したことをお知らせします。

１．背景・経緯

八街市は、市民の防災意識向上のため、市民参加型の体験訓練を中心とした総合防災訓練を実施するなど、地域住民や行政機関、趣旨に賛同する企業との連携による防災力向上を推進しています。

一方、損保ジャパンは１８８８年に日本初の火災保険会社として創業し、創業期には実際の火災現場に駆け付ける「火消し」として地域を守ってきた歴史があります。その「火消しの精神」を原点として、１３５年以上にわたり、社会の安心・安全を守り抜いてきました。現在は、「火消しの精神」を「HIKESHI DNA」と再定義し、社会課題の解決に貢献する「HIKESHI DNA 2030 Project」を全社で展開しています。

このような背景のもと、損保ジャパンが長年培ってきたリスクマネジメントや防災・減災のノウハウ、ＳＯＭＰＯグループの幅広いネットワークや専門的な知見を生かし、八街市の市民サービスの向上と地域の活性化に貢献するため、このたびの協定締結に至ったものです。

２．協定の目的

損保ジャパンと八街市が、それぞれ保有する知的・人的資源を有効に活用し、相互の連携及び協力を強化しながら地域の様々な課題に対応し、八街市の発展に寄与することを目的とします。

３．協定の主な内容

以下の項目において業務連携を行います。

（１）防災・減災に関すること
（２）福祉に関すること
（３）教育・生涯学習に関すること
（４）環境に関すること
（５）文化・芸術・スポーツに関すること
（６）地域交通に関すること
（７）その他地域の課題解決や市民サービスの向上に関すること

４．今後について

損保ジャパンは、今回の協定締結を契機として、八街市との連携を一層深め、防災・減災をはじめとする幅広い分野で地域課題の解決や市民サービスの向上に資する取組みを推進し、災害に強く安心・安全な地域社会の実現に貢献していきます。

【協定式の様子】





HIKESHI DNA 2030 Project

「HIKESHI DNA 2030 Project」は、当社の原点である"火消しの精神"を今に受け継ぎ、地域と連携して「災害に強く、だれもが安心して暮らせる地域社会の実現」を目指すプロジェクトです。

以上